

電力を半径10メートルほどの範囲に飛ばす。距離は将来、100メートル程度まで伸ばせる。

無秩序に電気を飛ばすと電波の干渉などのトラブルが起きかねないため、政府が規制している。無線給電は後押しする方針で、今年度中にも省令を改正して複数の周波数帯域を割り当てて、まず屋内での利用を認める。24年ごろには屋外でも使えるようにする計画だ。

ソフトバンクは全国に20万の基地局を持つ。従来の4Gを順次5G向けに置き換えており、通信に対応した地域では無線給電も使えるようになる。対応機器を持ち必要な契約をした利用者は、基地局の近くを通過するだけで自動的に充電できるイメージだ。

# 基地局から無線で給電

## ソフトバンクイヤホン、電池不要に

ソフトバンクは全国にある携帯電話の基地局を

使えるようにする。総務省が近く規制を緩和するのに合わせて実証実験を

始める。早ければ2025年に事業化する。無線で

イヤホンやスマートウォッチなどを電池なしでも

電気を送る新たなインフラの登場は多様な機器や

サービスの開発につながる。ワイヤレス給電の実用化に向けた技術開発を京都大学、金沢工業大学、情報通信研究機構（NICT）と共同で進める。

基地局に送電用の機器を設置し、高速通信規格「5G」に使う28ギガヘルツ（ギガは10億）の高周波帯域を使って電気を送る。人体に影響がないよう、まずは1ミリワットの小さな